

丘珠空港活性化プログラム

丘珠空港活性化推進検討会

平成 23 年 5 月

「丘珠空港活性化推進検討会」における検討経緯

◎検討会の目的

丘珠空港を拠点とする航空ネットワークの利用促進や有効活用等を推進するための具体的プログラムとそれらを実行するための仕組みづくりについて、丘珠空港に関係する行政機関や経済団体・民間事業者・専門家等が協働で検討を行い、平成 23 年度以降、着実に実践していくことを目的とする。

◎検討経緯

- ・ 第 1 回 平成 22 年 12 月 24 日
丘珠空港の活性化に向けた取組・課題等について
- ・ 第 2 回 平成 23 年 1 月 27 日
丘珠空港の航空利用の拡大策について
- ・ 第 3 回 平成 23 年 2 月 25 日
丘珠空港ビルの有効活用策、活性化スタートアップ・プロジェクトについて
- ・ 第 4 回 平成 23 年 3 月 29 日
丘珠空港活性化の推進体制、短期実施プログラムについて

丘珠空港活性化推進検討会メンバー

所 属	役 職	氏 名
北星学園大学	経済学部 経営情報学科長 教授	鈴木 克典
東京航空局	丘珠空港事務所 所長	渡邊 啓司
	丘珠空港事務所 管理課長	杉山 真一
北海道運輸局	企画観光部 交通企画課 課長補佐	桑山 秀也
	札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	堀内 範頭
北海道開発局	札幌開発建設部 新千歳空港整備室長	今 宗 紀
北海道	建設部 空港港湾局 空港活性化推進室 主幹	北村 英則
札幌市	市民まちづくり局 空港担当部長	小笠原 倫生
	観光文化局 観光コンベンション部 観光企画課長	川上 佳津仁
経済団体	北海道商工会議所連合会 政策・企画部 部長	石井 義康
	札幌商工会議所 総合企画部 企画課 次長	福富 康夫
札幌丘珠空港ビル 株式会社	総務部業務課長	菅原 直樹
株式会社 北海道エアシステム	常務取締役企画営業部長	渡邊 直樹
	丘珠空港所長	藤井 俊彦
バス事業者	北都交通 株式会社 取締役バス事業部長	栗 喜代松
	北海道中央バス 株式会社 札幌事業部 次長	有路 剛
観光・メディア・商業等	株式会社 JTB北海道 営業3課 営業課長	阿部 晃士
	狸小路道産食彩協議会 (HUGマート) 総支配人	牧浦 弘英
	株式会社 コスモメディア 代表取締役社長	相内 克敏
事務局	市民まちづくり局 総合交通計画部 空港担当課長	山根 直樹
	市民まちづくり局 総合交通計画部 交通計画課 空港担当係長	夏堀 幸司
	株式会社 ノーザンクロス 代表取締役	山重 明

(平成 23 年 3 月 29 日現在)

目 次

1 丘珠空港の果たす役割と重要性

1-1	道内航空ネットワークの中核を担う丘珠空港	1
1-2	航空網を活用した新しい観光の創出	2
1-3	緊急時拠点としての空港の重要性	2

2 丘珠空港活性化に向けた課題

2-1	航空利用の拡大	3
2-2	空港のにぎわい創出	4
2-3	広報・ソフトの強化	5

3 丘珠空港活性化の短期実施プログラム

3-1	基本方針	6
3-2	推進体制	7
3-3	短期実施プログラム	
	(1) 航空利用の拡大	9
	(2) 空港のにぎわい創出	10
	(3) 広報・ソフトの強化	11

1 丘珠空港の果たす役割と重要性

1-1 道内航空ネットワークの中核を担う丘珠空港

- 人口減少、少子高齢化、地域経済の停滞など北海道の社会経済環境が厳しさを増す中で、道内各地域の活性化を推進し、持続可能な地域経済・社会を構築していくためには、産業、観光、医療等について地域間の連携を強化し、ヒト・モノ・情報・経済の交流を活発化していくことが必要である。
- 広大な面積を有する北海道において、道内地域間の連携や交流を支える交通基盤として航空ネットワークは重要な役割を果たしており、今後の北海道全体の地域活性化を推進する上で、最も重要な社会資本の一つである。
- 特に、人口が集積し、行政、経済、医療等の諸機能が集中している札幌圏の都市機能を活用する面などにおいて、札幌市と道内各地域を短時間で結ぶ航空ネットワークは今後一層重要な役割を果たす。
- 丘珠空港は、都心部に近接する都市型空港として利便性・アクセス性が高く、札幌圏に集積する諸機能と道内各地域のニーズを効率的につなぐ航空ネットワークの中核として、また道内航空ネットワークのハブ機能として、今後一層重要な役割を發揮することが期待される。

道内空港活性化ビジョン(平成 22 年 3 月)

【道内空港のめざす姿・方向性】



【丘珠空港の将来展望】

札幌市と地方のビジネス需要や高度医療など地方のニーズに応える空港

1 道央広域連携地域の経済と人々の交流を支える航空ネットワークの実現

- ◆新千歳空港と一体となって道内航空ネットワークの中核を担う空港
- ◆ビジネス需要や高度医療など地方のニーズに応える空港

2 人と環境にやさしい道央広域連携地域の空の玄関口

- ◆安全・安心で環境に配慮した誰もが利用しやすい空港

3 地域と共生し地域の活性化を促進する拠点

- ◆地域の活性化の拠点となる空港
- ◆地域と共生する空港

1-2 航空網を活用した新しい観光の創出

- 北海道の経済活性化にとって観光は重要な役割を担うが、国内観光市場は個人旅行が主流となり、旅行者のニーズも成熟化、多様化しており、個性的で魅力的な観光コンテンツが求められている。
- また、東アジア地域を中心に北海道観光への関心・ニーズが広がり、来道外国人旅行者が増加している一方、より質の高い観光サービスを求める市場が広がっている。
- このような観光市場の変化・動向に対応した付加価値の高い観光を提供していく上で、道内の多様で個性的な地域の魅力を活かし、それらを広域的に結びつけた地域連携観光の展開が求められるが、広大な北海道ならではの新しい観光スタイルとして、道内航空網を活用した就航先地域の連携による航空観光ツアーの展開が期待される。
- 加えて、北海道は四季の変化に富んだ魅力的な風景資源を有しており、空から観る北海道の風景は新しい観光コンテンツ、航空観光の付加価値として国内外に向けて積極的に発信していくことが望まれる。
- 従来、丘珠空港発着の道内路線はビジネス利用が圧倒的で観光利用は少ないという特性があるが、就航先地域と連携して双方向の交流を活性化する魅力的なソフトを創出し、航空網を活用した新しい観光を積極的に展開していくことが求められる。

1-3 緊急時拠点としての空港の重要性

- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、道路・鉄道・海路のネットワークが寸断される中で、緊急救援活動の人員や物資の輸送拠点として地方空港が大きな役割を果たし、緊急時拠点としての空港の重要性が改めて認識された。
- 丘珠空港は、札幌の市街地に近接した都市型空港であり、道内各地で災害が発生した場合の緊急救援活動拠点として、また、札幌圏で災害が発生した場合の救援活動受入拠点として、重要な役割を果たすべき空港である。
- また、道内各地域において医師の確保が深刻な問題となる中、札幌圏からの医師の派遣や高度医療機能を有する札幌圏への入院や通院、救急救命医療の拠点として、丘珠空港は重要な役割を担っている。

2 丘珠空港活性化に向けた課題

2-1 航空利用の拡大

- 平成22年7月1日よりエアーニッポンネットワーク(A-net)が丘珠空港発着路線(5路線)を新千歳空港へ移転し、丘珠空港の就航路線は北海道エアシステム(HAC)の2路線のみとなったが、平成23年6月1日より、新千歳空港発着のHAC路線を丘珠空港に集約化し、4路線(函館・釧路・女満別・利尻(平成23年10月運航開始予定))が運航されることとなった。
- 短期的には、丘珠空港に集約化される路線の利用を拡大し、新生HACの経営が安定することが課題であり、主力であるビジネス利用の促進に加えて、搭乗率が落ち込む休日における観光利用の需要を創出することが重要となる。そのためには、民間の旅行会社や就航先地域と連携し、札幌圏と就航先地域の双方向の観光交流を促進する新しいツアーの商品開発や割引運賃の導入等を積極的に展開していくことが必要である。
- 中長期的には、経済活動、観光交流、地域医療などの面で、札幌圏と就航先地域の連携を強化することが今後一層重要であること、また、東日本大震災で再認識されたように、災害時において空港が果たす役割が非常に重要であることを踏まえて、札幌圏と道内各地域を高速で結ぶ道内航空ネットワークの拡充、その拠点となる丘珠空港の機能強化に向けた取組が求められる。

短期的課題 ⇒ 短期実施プログラム

- ▶ 丘珠空港集約後のビジネス利用の促進(平日中心)
- ▶ 航空を利用した新しい観光の開拓・拡大(休日中心)

中長期的課題

- ▶ 道民利用の促進(医療目的利用者の支援等)
- ▶ 付加価値の高い観光ソフトの開発(着地型ツアー等)
- ▶ 道内航空ネットワークの拡充(HAC路線の拡充等)
- ▶ 道外地方空港路線の開拓
- ▶ 観光チャーター事業の展開・誘致(HAC・他社)
- ▶ 不定期航空ニーズへの対応(プライベートジェット等)
- ▶ 国際化への対応(海外チャーター便の受け入れ等)



2-2 空港のにぎわい創出

- ・ 平成23年6月1日よりHACの新千歳空港発着路線が丘珠空港に集約化され、4路線・22便（出発11便・到着11便）が運航されることになったが、A-netの丘珠空港撤退前と比べると、便数は減少し、旅客数も大幅に減少する見通しである。
- ・ 空港経営の観点からは、既存路線の利用促進、新規路線の開拓等による航空利用者の拡大が最重要課題であるが、それに加えて空港ビルを有効に活用して非航空利用者の空港への来場を促進し、空港のにぎわいを創出していく取組が求められる。
- ・ 短期的には、A-netの撤退により空いた空港ビルの2階スペースを札幌市が借り上げ、札幌のまちの発展過程や、丘珠空港・道内航空網の歴史、丘珠地域の歴史と特色などを紹介・発信する歴史展示スペースを開設する予定であり、この新たな空間を積極的に活用した集客の取組を展開していくことが課題である。
- ・ また、HACの就航先地域（函館・釧路・女満別・利尻）の物産等をHACで空輸し、丘珠周辺の農産物等と合わせて空港ビルで販売するという丘珠空港ならではの産直市の開催や飲食の提供など、丘珠空港の特長を活かした魅力づくりに継続的に取り組むことが必要である。
- ・ 中長期的には、航空利用者の拡大、空港のにぎわい創出の取組を通して、空港における新たなサービスや収益性のある事業を開拓し、丘珠空港ビルの経営の安定化を図ることが求められる。

短期的課題 ⇒ 短期実施プログラム

- ▶ 空港ビルの2階スペースの有効活用
- ▶ 空港の特長を活かしたイベントやプロモーションの展開

中長期的課題

- ▶ 丘珠空港ビルの経営収支の改善・安定化
- ▶ 空港における新たなサービスや収益性のある事業の開拓



2-3 広報・ソフトの強化

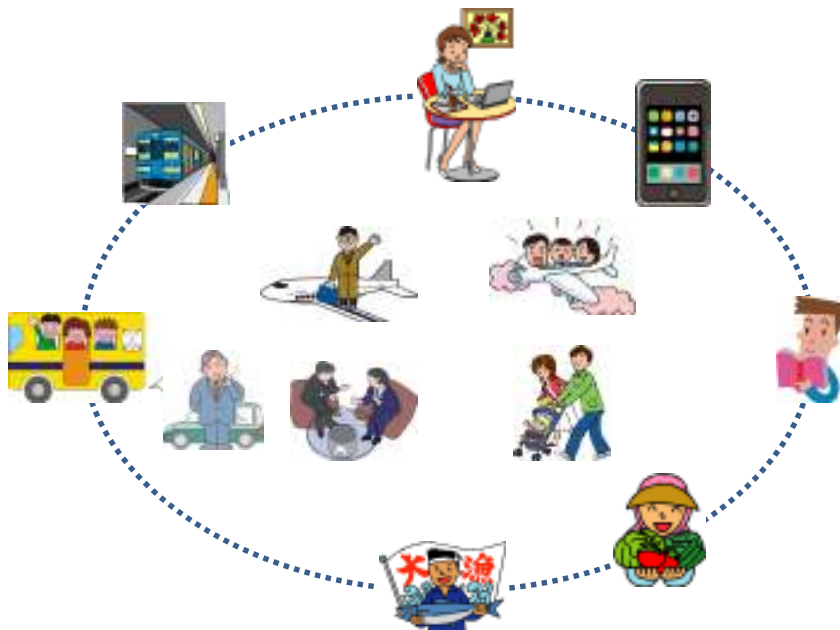
- ・ 今後、航空利用の拡大（ビジネス利用の促進、観光需要の創出）、空港のにぎわい創出（非航空利用者の空港来場促進）による丘珠空港の活性化を推進する上で、丘珠空港の情報発信力・プロモーション力を強化することが不可欠である。
- ・ 短期的には、HACの丘珠空港集約化を契機として、航空ユーザー（ビジネス、観光等）に対する情報サービスの向上や、新たな需要を創出するためのキャンペーンの展開、非航空利用者の空港来場を掘り起こすためのイベントの展開、多様なメディアの活用と連携など、積極的な広報・プロモーション活動が課題である。
- ・ 中長期的には、これらの広報・プロモーション活動を通して、丘珠空港の新しい魅力づくりを支援する民間企業、団体、専門家、NPO、市民等の緩やかなネットワーク（丘珠空港サポーターズクラブ）を形成し、このネットワークの中で丘珠空港活性化に向けた様々な情報やアイデア等を共有し、具体的なプロジェクトを創出・実現していくような仕組みを構築していくことが求められる。
- ・ また、航空利用者はもとより、非航空利用者も含めて、丘珠空港へのアクセス機能を向上することが必要であり、短期的には都心からの空港連絡バスや地下鉄栄町駅の乗り継ぎ機能の強化、空港利用者が使いやすいアクセス情報の提供等が課題である。
- ・ 中長期的には、今後の航空利用の拡大（特に観光ユーザーのニーズ）に対応した利便性の高い交通サービス（エアー&タクシー、エアー&レンタカー等）の提供が求められる。

短期的課題⇒短期実施プログラム

- ▶インターネットを活用した情報発信・案内機能の充実
- ▶空港連絡バスや地下鉄の利便性の向上

中長期的課題

- ▶丘珠空港サポーターズクラブの形成（多様な主体のネットワーク）
- ▶観光ユーザーのニーズに対応した交通サービスの提供



3 丘珠空港活性化の短期実施プログラム

3-1 基本方針

平成23年4月から㈱北海道エアシステム(HAC)の新たな経営体制がスタートし、6月にはHAC路線が丘珠空港に集約化されることを契機として、平成23年度から概ね3年間、官民協同による推進体制を構築し、丘珠空港活性化のための重点的取組(短期実施プログラム)を展開する。

【重点的取組】

①航空利用の拡大

- ・丘珠空港路線のビジネス利用の促進
- ・HACの就航先地域と連携した新しい観光の開拓・拡大

②空港のにぎわい創出

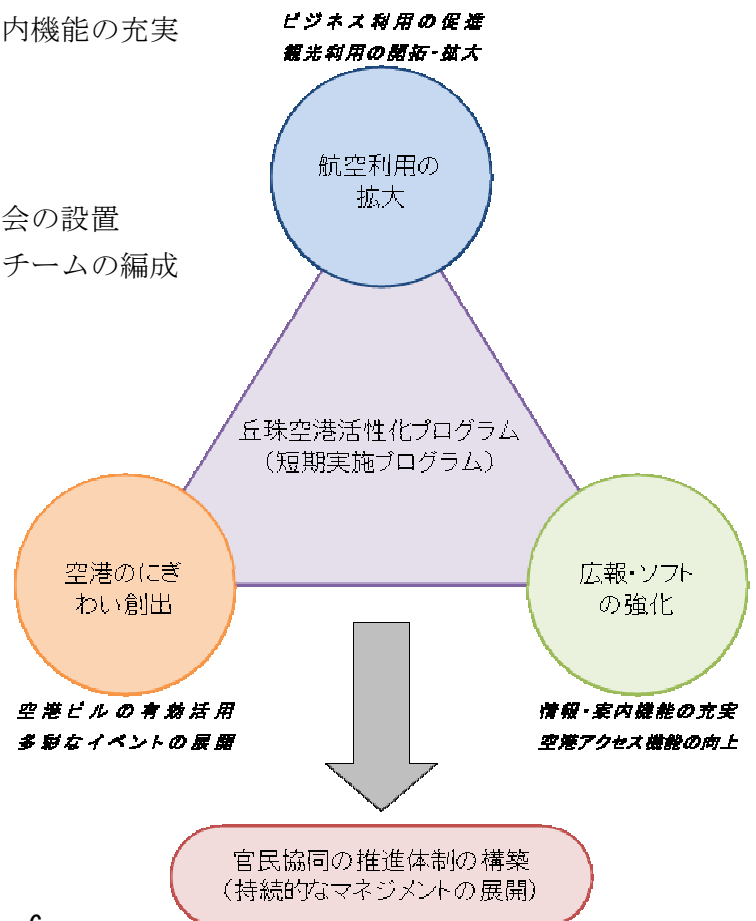
- ・空港ビルのスペースを活用した「札幌の歴史展示・学習スペース」の開設
- ・空港の特長を活かした多彩なイベントの展開
- ・遊覧飛行等のプロモーション事業の展開

③広報・ソフトの強化

- ・インターネットを活用した情報発信・案内機能の充実
- ・空港連絡バスや地下鉄の利便性の向上

④官民協同の推進体制の構築

- ・丘珠空港利用促進協議会・空港活性化部会の設置
- ・民間との連携・協力によるプロジェクトチームの編成



3-2 推進体制

【基本方針】

丘珠空港利用促進協議会^{※1}に、空港の活性化を推進するための専門部会を設置し、経済団体、民間企業、学識者等との連携・協力のもと、空港の活性化に取り組む。

【推進体制の整備】

①丘珠空港利用促進協議会に空港活性化部会を設置

- ・ 空港の活性化を推進するために、専門部会の1つとして空港活性化部会を設置する（事務局：札幌市）。
- ・ 空港活性化部会は、協議会の構成機関を基本メンバーとし、各種活性化プログラムの推進に当たっては、経済団体、民間企業、学識者等や関係自治体連絡会議（仮称）と連携を図りながら取り組む。

②プロジェクトチームの編成

- ・ 活性化プログラムの中で、関係主体が連携して展開する事業に関しては、プロジェクトチームを編成して実施する（観光利用促進、イベント展開など）。
- ・ プロジェクトチームは、空港活性化部会のメンバーを中心として、事業の内容に応じて、経済団体、民間企業、大学、専門家等のプロジェクト連携メンバーの参画協力により編成する（丘珠空港活性化推進検討会を発展的に継承）。

③インターネットを活用した情報発信

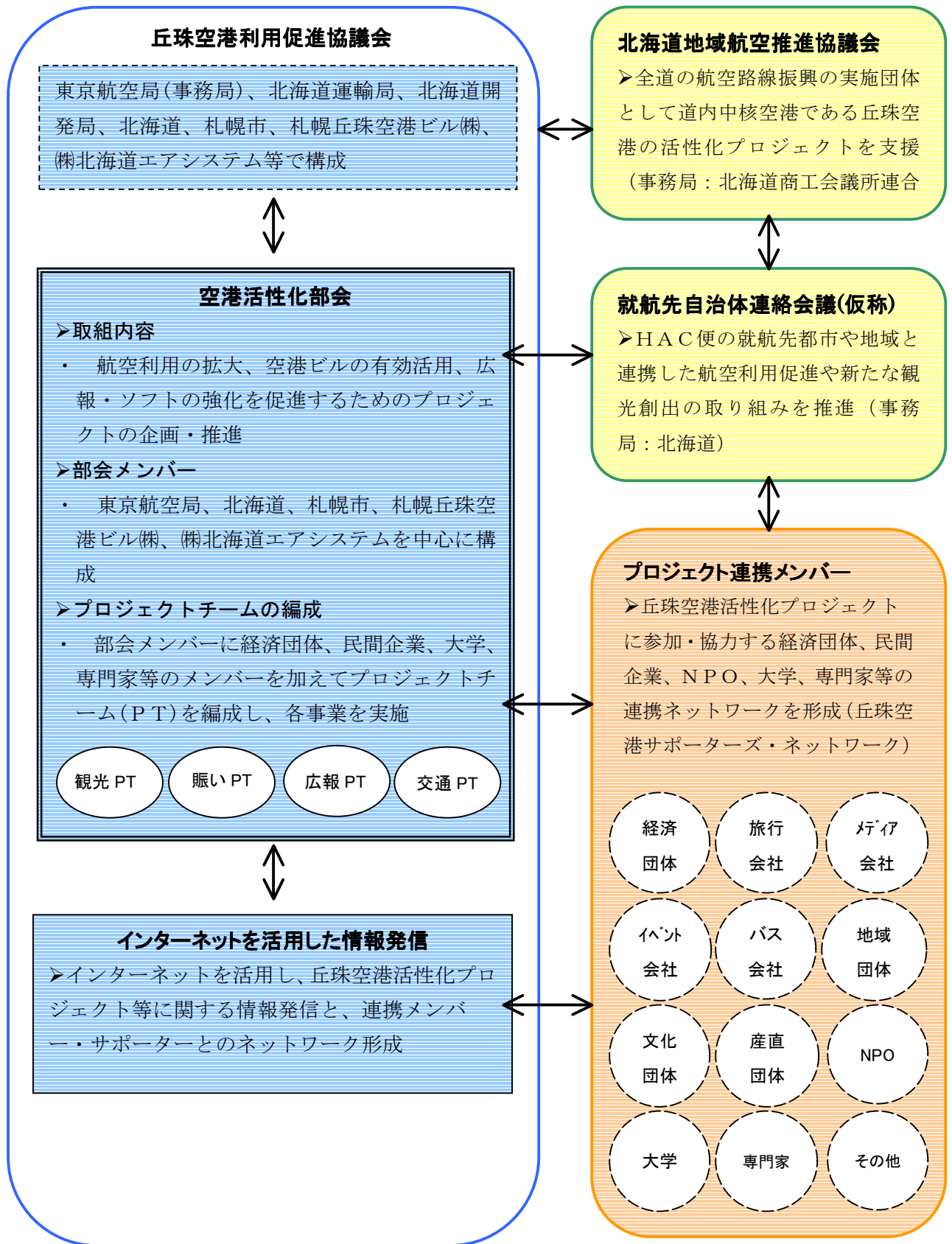
- ・ 空港活性化を推進するための各種取組などを広く情報発信するために、インターネットを活用した情報発信を行う。
- ・ 情報発信は、空港活性化部会員および各プロジェクトチーム参画メンバーの連携により行う。

※1 丘珠空港利用促進協議会

（目的）丘珠空港の関係者が相互に連携しながらその取り組みを強化し、丘珠空港の利用を促進するための施策に一層取り組むことにより、利用者利便の向上、航空ネットワークの維持及び拡大、観光立国の推進等を図り、地域の発展及び振興にこれまで以上に寄与する空港を目指し、経済社会の活性化等に一層資することを目的とする。

（構成）東京航空局丘珠空港事務所、北海道運輸局、北海道開発局、北海道、札幌市、札幌丘珠空港ビル(株)、(株)北海道エアシステム

丘珠空港活性化推進体制のイメージ図



3-3 短期実施プログラム

(1) 航空利用の拡大

①丘珠空港集約後のビジネス利用の促進

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 ビジネスユーザーが利用しやすい航空ダイヤの編成	▶日帰りで仕事がしやすい往復便の設定(朝7時台の出発便、夜19時台の到着便等)	北海道エアシステム	丘珠空港集約に合わせて実施
2 ビジネスユーザー向けのPR活動の展開	▶経済団体・自治体等の連携・協力による新生HACの利用促進に向けたPR活動を展開	北海道エアシステム 札幌商工会議所 北海道、札幌市	丘珠空港集約に合わせて展開
3 ビジネスサポート機能の充実	▶空港ビル内のインターネット環境(無線・有線 LAN)の充実、ビジネススペースの設置等	札幌丘珠空港ビル	平成23年度から検討実施
4 モバイルサイトによる情報提供	▶携帯電話等から運行・空席情報、交通アクセス情報等が閲覧できるモバイルサイトの運用	札幌丘珠空港ビル	札幌丘珠空港ビル事業として平成23年3月に運用開始

②航空を利用した新しい観光の開拓・拡大

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 観光周遊商品の販売	▶休日等にHACを利用した観光を楽しめる周遊商品を販売	【観光プロジェクトチーム】 ・北海道エアシステム ・旅行会社 ・メディア会社 ・北海道、札幌市 【連携主体等】 ・就航先自治体 ・札幌市内関係機関 ・北海道内都市経済活性化会議(観光部会) ・北海道地域航空推進協議会	平成23年度のスタートアップ・プロジェクトとして試行的に実施し、ユーザーの需要を把握
2 観光ユーザー向けの割引運賃の導入	▶土日祝日・ゴールデンウィーク・夏休み・年末年始等の観光利用向けの割引運賃の導入を検討		当面はキャンペーンとして試行的に実施し、運賃割引による需要創出効果等を検証しながら本格的な導入を検討
3 就航先地域と連携した新しいツアーの開発	▶丘珠発着の地域小旅行(函館・釧路・オホーツク・利尻の旬を楽しむツアー等) ▶就航先発着の札幌小旅行(札幌ドーム・コンサート・ショッピング・メディカルツアー等) ▶レンタカー会社との提携によるエア&レンタカー商品の検討		旅行会社や就航先自治体等と連携を強化し検討を推進

(2) 空港のにぎわい創出

①空港ビル2階スペースの有効活用

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 札幌の歴史展示スペース(仮称)の開設	▶空港ビル2階の空きスペースを札幌市が借り上げ、札幌のまちづくり、丘珠空港、丘珠地域の歴史等を紹介する展示スペースを開設	【賑いプロジェクトチーム】 ・札幌丘珠空港ビル ・札幌市 【連携主体等】 ・文化活動団体、NPO等 ・地域団体、市民団体 ・学生	平成23年度開設予定
2 イベントスペースとしての活用	▶上記歴史展示スペース及び出発ロビーを活用し、多彩なイベント(集会、セミナー、展示会、コンサート等)の場として活用		平成23年度から逐次実施

②空港の特長を活かしたイベントやプロモーションの展開

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 空港ビルを活用した自主企画イベントの展開	▶丘珠空港ビルが中心となり実施している自主企画イベント(産直市、ロビーコンサート、展示会、アカデミー等)を継続して展開	札幌丘珠空港ビル	従来取組を平成23年度以降も継続・充実
2 遊覧飛行のデモフライト等の実施	▶遊覧飛行のプロモーション事業としてデモフライト等を実施	【賑いプロジェクトチーム】 ・丘珠空港ビル ・北海道エアシステム ・メディア会社 ・旅行会社 ・北海道、札幌市	当面はHACの機材繰りの可能な範囲で実施し、将来的に本格展開

(3) 広報・ソフトの強化

①インターネット等を活用した情報発信・案内機能の充実

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 モバイルサイトによる情報提供(再掲)	▶モバイルサイトによる運行情報、空席情報、アクセス情報の提供	札幌丘珠空港ビル	モバイルサイトは空港ビル事業として平成23年3月運用開始済み
2 インターネットを活用した情報発信とネットワーク形成	▶インターネットを活用し、丘珠空港の魅力向上・利用促進に関する情報を発信・共有する場として運用	【広報プロジェクトチーム】 ・札幌丘珠空港ビル ・北海道エアシステム	平成23年度中に開設、運用開始
3 観光情報・イベント情報等の発信	▶HACツアーや空港イベント、各種キャンペーン等の情報を共有化し、多様なメディアと連携して発信する仕組みを構築	・メディア会社 ・旅行会社 ・北海道、札幌市	平成23年度から逐次実施

②空港連絡バスや地下鉄の利便性の向上

実施項目	実施内容	実施主体等	実施時期等
1 都心直行バスのアクセス性の向上	▶直行バスの増便 ▶空港到着時間の調整(飛行機出発の35~40分前の到着)	【交通プロジェクトチーム】 ・札幌市 ・北都交通、中央バス	栄町駅の交通広場整備は平成23年度に都市計画決定予定
2 地下鉄栄町駅の乗り継ぎ機能の強化	▶地下鉄栄町駅の交通広場整備、案内サイン充実等による乗り継ぎ機能の強化	・丘珠空港ビル ・北海道エアシステム	
3 モバイルサイト等によるアクセス情報の提供	▶フライトタイムに応じた都心直行バス、地下鉄乗り換え等のアクセス案内情報の提供	札幌丘珠空港ビル	モバイルサイトは平成23年3月運用開始済み